

川崎ジュニア文化大賞受賞作品

「動物の写真をとりたい」

下平間小学校 5年 野澤 萬次郎

ぼくの将来の夢は、動物写真家になることです。

ジャングルの奥地やアフリカのサバンナや、氷でおおわれた南極大陸を旅して、そこに生息している野生の動物の姿を写真に収める。野生動物の写真集を出版したり、インターネットで配信したりして、きびしい大自然のなかで生きている野生動物の美しい姿を世界中のたくさんの人に観てもらおう。そしてそれらの動物がいま、絶滅しそうなことをたくさんの心ある人に感じてもらう。ぼくは今、将来こんなことを仕事にして生きていけたらなと、夢見ています。

ぼくに動物のおもしろさを教えてくれたのは、保育園の頃、夕方遅くまで残っているときに世話をしてくれていたアルバイトの先生でした。その先生はよく一緒に生き物の図鑑を読んでくれました。生き物のことをよく知っていて、鳥や魚や様々な動物のことを、図鑑を観ながらいつもやさしく話してくれました。

その頃、「飛び出せ科学くん」というテレビ番組が大好きで、兄と一緒に動物の特集を楽しみにしていました。チーターよりもはやいカラカルのことや、一八メートルもあるダイオウイカのが心に残っています。そういう動物のことを楽しく紹介してくれる芸人が出演していて、ぼくはその人達のような動物に関わる楽しい仕事につきたいなと、ぼく然と思っていました。

三年前、家族旅行でオーストラリアのケアンズに連れて行ってもらいました。ケアンズでは、草原にいる野生のカンガルーを観察したり、いくつもある巨大なありづかを見たり、サンゴ礁でウミガメと一緒に泳いだりしました。はじめて野生の動物の姿を間近に見てぼくは、とても興ふんしていました。野生動物を身近に感じながら働けたらなと、思うようになりました。

昨年の秋、上野動物園に連れて行ってもらったとき、帰りにおみやげ屋さんで一冊の写真集を買ってもらいました。その写真集には、サバンナを歩くキリンの親子や、流水の上に密集するペンギンや、水遊びをする象の姿が収められていました。「これだ!」と思いました。「動物写真家なら、野生動物の側で働ける!!」

ぼくが動物写真家になりたいと思うようになったのは、このようないきさつからでした。

動物写真家になるために今ぼくがしていることは三つあります。

一つ目は、できる限り生き物に触れる機会を持つことです。二年前の夏、夢見ヶ崎動物公園で飼育体験をさせてもらいました。去年は熊本で、広大な敷地に放牧されている牛を見に行ったり、平飼いされている鶏の卵を取らせてもらったりしました。今年の夏も、山梨にキャンプに行き、自然や自然の生き物と触れ合ってくる予定です。

二つ目は、生き物を世話することです。今ぼくは、クワガタとカブトムシの幼虫を飼い、ひまわりとカブを種から植えて育てています。これは、夢見ヶ崎動物公園の園長さんに、動物に関わる仕事につきたいなら、何か生き物を世話して育てる経験をなさいと言われたからです。それは、自分中心ではなく、生き物に寄りそって生活できるようになるためだそうです。

そして三つ目は、学校の勉強です。本を読んだり、文章を書いたり、発表したりすることは、動物写真家にとっても基本として大切なことだと思っています。

ありがたいことに、「動物写真家になりたい」というぼくの夢を、家族はみんな応援してくれています。毎月、サイエンス倶楽部に通わせてもらっていますが、母はいつも送り迎えをしてくれて、その日学習したことについていろいろと聞いてくれます。兄は、ぼくが動物のことで質問すると、いつもやさしく教えてくれます。父は、前に使っていた一眼レフのデジタルカメラをぼくに譲ってくれました。先日のゴールデンウィーク、家族旅行でそのカメラを使って写真をとると、ちょっとプロのような、いい写真がとれました。

家族に感謝しながら、動物のことが大好きな今の気持ちを大切にしつつ、ぼくは夢に向かって頑張っていきたいと思っています。